

平成22年度第1回「国連持続可能な開発のための教育の10年円卓会議」
委員の発言要旨

<p>岡島委員 (現状認識) (要望提言)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2002年当時に比べればESDもだいぶ認知されてきた。 ・ESDのための、これがESDといえる施策を行ってほしい。また、これがESDであると言える柱を作って青写真を示すべき。 ・また、ESDと「新たな公共」と関連を持たせてESD施策を進めていくべき。
<p>竹本委員 (現状認識) (要望提言)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ESDの10年については、国連機関が協力しながら進めておりユネスコがリードエージェンシーとして全体を取りまとめているが国連大学はESDのボトムアップのアプローチとしてRCEを世界的に推進している。 ・政府として我が国のESDの全体像をクリアにするべき。 ・戦略的に2012年のリオ+20や2014年の締めくくり会合等のスケジュールも見据えながら、我が国の全体像を国際的に発信すべき。
<p>小澤委員 (要望提言)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人は優れた取組を行っているのに言わないところがある。我が国としてのESDの骨格や全体像をアピールする必要がある。
<p>小川委員 (要望提言)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ESDを地域に落とし込んでいくためには、教育分野だけでなく社会の方向性自体を定義しないといけない。 ・地域づくりの中で、ESDに求められている教育的な力や新たな地域のネットワークづくりといったことを包括的に展開する視点をもってESDを進めなければいけない。
<p>手島委員 (現状認識) (要望提言)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育というシステムを上手く活用することで全国をESDで浸透させることができる。 ・学校現場では、ほとんどESDが理解されていない。 ・理解してもらうためには学校現場への研修が重要である。自治体の中にESDの担当部署をつくり、その中で、ESDの視点を踏まえた教員への指導を考えるべき。
<p>佐藤委員 (現状認識) (要望提言)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参考資料『学校における持続可能な開発のための教育（ESD）のための研究』は、社会と理科と総合学習の授業で使えるものとなっている。 ・資料は学校の中でどのように展開していけばいいかを示している。 ・現在は中間報告であり、継続的に実践事例と国内外の研究に基づいて評価を増やしていき最終的な報告書を出す予定である。 ・これまでの食育、里山、生物多様性といった従来の行政区ではないものの考え方の中でESDの取り組みをどのように意味づけるか。 ・生産と消費という考え方に教育の概念も入ってくるなど、ESDに生産・消費という側面もしっかり考えていく必要がある。
<p>田中委員 (要望提言)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ESDの最大の課題は地域の課題とグローバルな課題をつなぐこと。地域と向き合うファシリテーター、コーディネーターの養成が重要。
<p>中村委員 (要望提言)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・DESD後半5年間はどこに力点置くか、方向性をどうするかを考えながら2014年に向けて行動を進めていくと良い。
<p>阿部委員 (現状認識) (要望提言)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にまだまだESDが見えず、また、政府のESDの推進体制も弱い。 ・現在の日本社会に起きている格差社会、無縁社会といった新たな問題が出てくる中、どのように持続可能な社会を作っていくかについて、ESDがより大切になってきている。 ・政府としてESDの重要性を再確認し、体制整備を行い、ESDの取組の「見える化」、「つなぐ化」を推進してほしい。 ・CEPAの考え方がESDでは抜けている。また、社会的責任に関する円卓会議もESDを意識しているので入れるべき。

<p>多田委員 (要望提言)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育については、学習指導要領にESDを位置づけたことは非常に重要であり、さらにこれを進化させるべき。 ・ESDがなぜ広まらないかは、ESDの概念が理解されていないため。やはり解釈や翻訳が大事ではないか。さらに、理念と実践を結び付ける手立てを考えるべき。 ・「協働型の学び」といった新しい学習の理念（概念）を生み出す事がESDであり、基本的なESDの用語を踏まえた上で、様々な場面における研修を実施することが重要である。
<p>及川委員 (現状認識) (要望提言)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各省庁の施策が一つのテーブルに載ったのは意味がある。次は「つながる化」が重要。ESDは広まってきているがデコボコであり格差がある。 ・各省庁で行われている施策を地域に落とししていく際には、地域と学校の両方で実施し、この2つをうまく連携させることが重要である。 ・ユネスコスクール、RCE、+ESDプロジェクトの三つ巴でESDを推進していかなければならない。これらの背後にある連携の形をグッドプラクティスとして出していけないといけない。 ・現在、ESDについて「測る」時期に来ていると考える。ESDの理念がどれだけ共有されたか、実践されたかといった視点やどれだけ続いているのかといった長さ、他にもパートナーシップ、発信といった観点からもしっかり測っていく必要がある。
<p>重 委員 (要望提言)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・政府の全体像を知るために、ポータルサイトを作る、または、各省の取組のリンクを貼るなどして欲しい。スケジュールは事前に知りたい。
<p>田淵委員 (要望提言)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ESDは「編みなおし」。今まで各々の視点で地域に根ざした色々な活動が行われているが、ESDという視点を持って、地球環境そのものを次世代にバトンタッチしていくということ。 ・地域のすばらしい活動を守っていくという視点から地域・世代間教育として展開すれば普遍性をもつ教育となるのではないか。
<p>森委員 (現状認識) (要望提言)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ESDにリアリティを感じていない。既に取り組んでいる国際理解教育といった活動は行っているが、これに「ESD」という名札を付けてもらう必要性がない。 ・実社会におけるESDに対する壁のようなものについてチェックシートを作って、今やっている活動を見直すことができるとよりリアリティが持てるのではないか。
<p>福島委員 (現状認識) (要望提言)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ESD」という概念の浸透よりもコンテンツが地域で共有されていけば良いのではと思う。 ・これからは、取組の評価をいかに行き、その中で活動を軌道修正できることが必要ではないか。
<p>柴尾委員 (現状認識) (要望提言)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ESD関連事業が、国内実施計画当初から掲載されているものと9割は一緒。 ・我々がESDを魅力的に語る語り部になっているか、学校だけでなく、公民館や地域コミュニティもESDを語るかが、アジアのコミュニティの発展のためにも重要である。
<p>小澤委員 (要望提言)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・取りまとめには、ESDの概念や理念の見える化や、社会に広めるための教育の方法まで踏み込んでいくか等も議論していく必要がある。